*Back Number*

本論文は

# 世界経済評論 2018 年 5/6 月号

**(2018 年 5 月発行)**

掲載の記事です

2018年5月15日発行（隔月（奇数月）発行）／1953年創刊・通巻696号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

世界経済評論 5月 6月

World Economic Review 2018 Vol.62 No.3

【特集】2030年のグローバル経済と経営：第4次産業革命の衝撃

第4次産業革命，ビジネスの常識が根底から変わる。その時経営者は？ ……志賀俊之

2030年のグローバル経営：AI革命をどう活用するか ……安室憲一

第4次産業革命とメガ・コンペティション：米欧中の三様の革新に向けた動き ……榎本俊一

イノベーションとエネルギー産業の将来 ……橋川武郎

【論文】スウェーデンモデルの学び方：スウェーデンの社会経済に見る強さの秘訣 ……渡邊芳樹

【リレー連載】百花繚乱：国際経済学に関する実証研究

第11回 非関税措置の貿易制限的影響と規制のハーモナイゼーションをめぐる実証分析：どの国の規制に合わせるべきなのか？ ……小橋文子

【書評】川邊信雄著『「国民食」から「世界食」へ――日系即席麺メーカーの国際展開』…山内昌斗

米倉誠一郎著『イノベーターたちの日本史――近代日本の創造的対応』…小浜裕久

【本論新書】有識者の壁 …鶴岡秀志

【コラム】勝ち残る企業創りの条件(1) …新 将命

【連載コラム】*Chat Biz-USA* ハワイの物価はなぜ高いのか：ジョーンズ法の恐かさ …小田部正明

*Insight America* 大統領伝記とトランプ …佐藤敬彰

【巻頭言】知的機動力によって激動の時代を生き延びよ ……野中郁次郎

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT　発売元：文眞堂


世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料 1,320円×6冊＝7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休] 0120-223-223

お支払い方法 Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

# イノベーターたちの日本史
## ――近代日本の創造的対応

静岡県立大学名誉教授　小浜 裕久

［著者］
米倉誠一郎（よねくら　せいいちろう）
　一橋大学イノベーション研究センター特任教授
［発行］東洋経済新報社，2017 年 4 月刊
［判型］四六判，328 ページ
［定価］本体 2000 円＋税

米倉誠一郎は「変な奴」だ。脇は甘いけど，勉強しない訳けじゃないらしい。昔，『経営革命の構造』の中の「産業革命」の章を読んで，「あれ読んで産業革命がよく分かった」って言ったら，米倉は「僕も書いててよく分かった」と応えた。

「歴史に客観的な史実などはない」，「歴史とは結局，主観的な記述である」てなことが書いてあって（281-282 頁），多くの歴史学者は同意しないかもしれない。塩野七生は，自分の卒業論文を大学の歴史教授が「こんなモノ，歴史じゃない」とコメントしたことに憤慨して，「歴史学じゃない」というなら何も言わない，でも，「歴史じゃない」なんてコメントは絶対に受け入れられないと語っている。

「はしがき」で米倉は，この本は明治から昭和初期にかけての日本の近代を「創造的対応」の視点から描こうとしたもので，日本の近代は西欧先進国から押し寄せる津波のような外生的挑戦や刺激に，いかに創造的に対応していくかという歴史だったからである，と書いている。いいねえ，こういう本ばかりだと読書が進む。

「経済理論において正当な評価を得ていない分野は，状況の変化に対する対応の仕方には相違があるということである」というシュンペーターの言葉を引用して，慣行の延長線上で変化に「順応」することと，慣行のはるか枠外から「創造的に対応」することとの違いであると言う。この本は，日本近代史において日本人がいかに創造的であったかを，人・企業の視点から検証したモノだ。

米倉は，財閥が非合理的な社会悪であるといった見方を否定している。植民地化の危機が迫る中，後発国が近代化するには限られた資源を集中的に活用しなくてはならないと言う（125 頁）。総合商社の形成もその一例だろう。米倉が「通説」にとらわれない心を持っていることは確かだ。資金よりも人材・知識の多重利用が重要だと言う（194 頁）。

「名誉革命」が無血革命の典型というが，明治維新はさらに血生臭くない革命であったと米倉は言う（86 頁）。そうかも知れない。「感性と直感が創造的対応の基盤」だという考えはよく分かる（16 頁）。では，なぜ明治維新のあと，日本は急速な近代化を推し進めることが出来たのだろうか。それが知りたい。江戸時代にそのようなことが制度的に準備されていたのだろうか。

代議政体はヨーロッパにしか生まれなかったというアジア観は，偏見に過ぎないと井上勝生は言う。偏見に満ちた欺瞞のヨーロッパ史観については，石川・小浜『「未解」のアフリカ』を見て下さい。

小浜さんは，いたって「常識人」だと思っているが，米倉は「自分と同じく」変人だと思っているようだ。

（こはま　ひろひさ）